私の愛読書

宮本百合子

愛読という言葉の普通の使いかたとは違うけれども、非常に感銘をもってよみ、人類の歴史の精髄を学んだ二つの本をあげます。

エンゲルス著「家族・私有財産及国家の発生」

同　　　「空想から科学へ」

前者は、題名がこの卓抜で美しい社会の歴史の内容を語っております。後者は、人間社会に、何故貧富の差が生じたか。その社会的な不幸をなくしようとして、優れた人々がどんなに努力して来たか。そして、この人間らしい努力は、だんだん空想的な方法から科学的な理解と方法とを発見して来て、今日、私どもの将来

に幸福建設の可能を示すものとなって来た歴史の、不抜な歩みを物語っている書物です。

〔一九四六年五月〕

底本：「宮本百合子全集　第十七巻」新日本出版社
１９８１（昭和56）年３月20日初版発行
１９８６（昭和61）年３月20日第４刷発行
底本の親本：「宮本百合子全集　第十五巻」河出書房
１９５３（昭和28）年１月発行
初出：「サンデー毎日」
１９４６（昭和21）年５月５日号
入力：柴田卓治
校正：磐余彦
２００３年９月15日作成
青空文庫作成ファイル：